

「今月の御言葉」(石城山版 友清歆真全集より)

真の宗教は人間の分別や工夫で製作されず、

天造のものであります

友 清 歆 真

宗教は神学ではありません。宗教は哲学でもなく科学でもなく、宗教は生活であります。しかも幽顕にわたる生活であり、つねに善き生活、美しき生活にすこしづつでも近づく姿勢をとるものであります。しかも真の宗教は人間の分別や工夫で製作されず、天造のものであります。人間は立派な羅針盤をつくることは出来ず。しかし羅針盤が、どの航路をえらぶべきかを考へては呉れません。

真の古神道、記紀以前の此の「しまぐに」の古神仙道といふものは、何等いはゆる超国家主義的な色彩のあるものではなく、インドやエジプトやイスラエルやシナの太古に行はれたものと共通の面もある人類普遍的な大道でありまして、記紀以後の「神学」を有せざるものであります。それは恐らく、どこでもさうで、モーゼやヨハネやイエスやパウロや釈迦や老子や孔子が、今日その道を「神学」的に語る人々の説を聴いたら、却ってそのめづらしさに聴き入るかもわかりません。

あまり古いことでなく、近ごろの先輩のことについても随分誤解が多いであります。「個菴非詩話」に古人の詩を正解することの困難を論じたあとで一つの寓話が記してあります。昔、一老儒が毎日のやうに学徒のために杜甫の詩を講じてみました。じつに詳細な研究で聴講者たちを感服させてみました。その中に見知らぬ老人がひとり居るので、ある日怪しんで、ひそかに別室に引見したところ、「いや、実は拙者は杜甫の亡霊なんだが、拙者の詩にはそんなつもりはなかったのだが、貴殿の説が如何にも面白いので雨の日も雪の夜も斯うして聴講してゐただ。」

神学ではない